

東京新聞

中日新聞東京本社
東京都千代田区千代田二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

「いのちの落語家」樋口強さん

笑いで伝える被災者の思い

本 日 東 災 震 大 5 年

二〇一二年十一月、岩手県大船渡市の仮設住宅集会所で開かれた「いのちの落語独演会」。会場狭しと集まった八十人の中に八十代と三十代の女性がいた。二人は津波で家族など大切な

ものを失った上、がんとう共通の境遇を抱えていた。同じがん患者である樋口さんの落語に共鳴した。「泣いて笑いました」との反応に、樋口さんは「二人の人生を落語にできないか」と思い、以来取材を始めた。

がんと闘う2女性の物語 本に



新著について話す樋口強さん＝東京都千代田区で

二人は樋口さんが高座で取り上げる「生きてるだけで金メダル」という言葉がお気に入りだ。

この創作落語は一四年九月に東京都内で開かれたが、笑顔を見せてくれた。今、二人は樋口さんが高座で取り上げる「生きてるだけで金メダル」という言葉がお気に入りだ。

直面した樋口さんは「興味本位と取られるかもしれない。嫌がられたらお蔵入り会」で披露され、三十代女性も対談に加わり、会場に盛り返る。

大震災、がん。「がんはつらいけど、津波は悔しい」。演会で披露し、被災者からその言葉はがん患者としては「全国の人に聞いてもらいたい、みんなが頑張っている」と知ってほしい」との言葉を交わした。

被災地などでの講演や独演会を通じて被災者の気持ちを伝える。本書の問い合わせは、本紙出版部＝電話03(6910)2527へ。

樋口強さんの新著「津波もがんも笑いで越えて」



いのちの落語家が追った3・11

津波もがんも笑いで越えて

笑ってたほうが楽しいよ。生きて、楽しいよ。

ひぐち・つよし 1952(昭和27)年生まれ。新潟大学法学部卒業。96年、会社勤務時代、肺小細胞がんを患い、3年生存率5%と宣告されたが、手術と抗がん剤治療で乗り越え、2001年からがん患者と家族を招待する「いのちの落語独演会」を毎年開催。

津波もがんも笑いで越えて

いのちの落語家が追った3・11

樋口 強 著 定価 本体1500円+税

二人の女性が「津波とがん」という二重の苦しみを「笑いで越えて」の姿を、いのちの落語家が書き下ろした。創作落語いのちの落語。あの日を忘れない「ライブ録音CD付」。

東京新聞出版部(中日新聞東京本社)
〒100-8505 東京都千代田区千代田二丁目1番4号
☎03-6910-2527 http://www.tokyo-np.co.jp/book/